

実践のまとめ（第2学年 国語科）

令和3年10月12日第5校時
指導者 阿賀町立阿賀津川中学校
教諭 清野 絢

1 研究テーマ

他者との関わり合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることのできる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標には、「考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることなどができるようにすること」が掲げられている。中でも第2学年の「C読むこと」の領域では、オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」と述べられている。まずは自分の考えをもつことが、受け身ではない主体的な学びへの第一歩となる。学習指導要領に示されているように、さらに自分の思いや考えを広げたり深めたりする考えの形成、共有には、自分以外の他者の考えがとても重要になってくる。自分と同じもしくは似ている考えや、自分では思いつかなかった考えなどに触れることで、新たな気づきを得たり、考えを再構築したりすることができるのではないだろうか。自分の考えを他者の考えと対比して共通点や相違点を明らかにする交流により、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになると考えられる。日々の授業を振り返ると、自分の考えを書いて発表する程度にとどまり、他者との交流を生かし切れていなかったことが課題として挙げられる。「広げたり深めたり」という部分が弱かった。以上のことから、本研修では、「他者との関わり合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることのできる生徒の育成」をテーマとし、書くことを苦手と感じている生徒も取り組みやすい授業を目指すことにした。

(2) 研究テーマに迫るために

① 思考ツールの活用による考えの可視化

書くことを苦手と感じている生徒もいることから、自分の考えを整理したりまとめたりできるように、マトリックスやステップチャートなどの思考ツールを活用する。考えを可視化することで、文章を書くことへの苦手意識の軽減を図る。

② 他者との交流の場の設定

個人で考えた後に、複数の小グループ内で自分の考えを発表させる。そして、相反する考えをもつ学習課題を設定し、自分とは違う考えを選んだ人の話が聞けるようにグループを編成する。そうすることで、まったく別の価値観にも触れることができるので、より充実した交流の場になると考えた。

(3) 研究テーマにかかわる評価

思考ツールによる考えの可視化や、他者との交流の場を設定したことにより、授業（本時）の最初よりも自分の考えが広がったり深まったりしたと感じた生徒が、授業（本時）終了時には80%以上になる。（Googleフォームによる自己評価）

3 単元と指導計画

(1) 単元名

伝統文化を味わう「平家物語」 (新しい国語 東京書籍)

(2) 単元の目標

- ・表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界に親しむことができる。(知識及び技能 (3) ア)
- ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解できる。(知識及び技能 (3) イ)
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりできる。(思考力、判断力、表現力等 Cオ)
- ・描かれた状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考える。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア ・現代語訳や語注などを手がかりにして作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。(3)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。Cオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで朗読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って、武士の価値観や生き方について考えをまとめようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間、本時4/6時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内で記述する。)
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を確認し、学習の流れをつかむ。 ・源平合戦や平家物語について知る。 ・「祇園精舎」の内容をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎源平合戦の経緯や作品のあらましを知ろう。 ・教科書やスライドで理解する。 ◎「祇園精舎」を読み、無常観について知ろう。 	<p>態源平合戦や平家物語について、初めて知ったことや疑問に思ったこと、もっと知りたいと思うことなどを書くことができる。 【ワークシート】</p> <p>知・技 態古典ならではのリズムに沿い、進んで音読をしている。 【行動観察】</p>
2 (2) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・「那須与一」の内容をとらえる。 ・「弓流し」の内容をとらえる。 ・自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「那須与一」を読み、描かれた状況や心情を読み取ろう。 ◎「弓流し」を読み、武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめよう。 	<p>知・技 古典に表れたものの見方や考え方を理解している。 【ワークシート】</p> <p>態場面の状況や武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめている。 【ワークシート】</p> <p>思・判・表 他者との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。 【ワークシート】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を通 	<ul style="list-style-type: none"> ◎武士の価値観や生き方 	<p>思・判・表 これまでの学習を踏ま</p>

(2)	して、武士の生き方や心情について考えたことをまとめる。 ・「祇園精舎」「那須与一」「弓流し」に出てくる表現技法を理解する。	について考えたことを文章にまとめよう。 ◎表現技法について確認し、効果について話し合おう。	え、「無常観」についてきちんとおさえて、武士の価値観や生き方について考えたことを書けている。【レポート記述分析】
-----	--	--	--

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は、「平家物語」を通して古典に描かれている世界を味わう内容となっている。繰り返し音読をすることで、古典のリズムに親しむことができる。学習をする上で、源平合戦の背景やあらましを知らない生徒もいると考えられる。古典に苦手意識をもたれないように、背景やあらましなどを丁寧に説明してから作品に入りたい。また、平家物語全編を貫くテーマである「無常観」をしっかりと押さえることが必須となる。登場人物の心情や、戦いの中に表れる「無情さ」「冷酷さ」などを知り、この時代の価値観や生き方に迫ることで、現代とは違う生徒の「ものの見方や考え方」を広げたい。

(2) 生徒の実態

本クラスの生徒は、男子10人、女子13人、計23人である。多くの生徒が与えられた学習課題に対して前向きに取り組むことができる。また、男女分け隔て無く自分の考えを話すことができる。しかしながら、一方的な考えの発表だけに終始して話し合いが深まらないという課題がある。加えて、「書く」活動になると根拠を明確にししながら自分の思いや考えをうまく記述できず、苦手意識を感じている生徒も少なくない。本時では、どちらかの考えを選ばせるという二項対立的な学習課題を与え、思考ツールも活用する。それによって、書くことが苦手な生徒が少しでも自分の考えを書き表せるようにしたい。また、一人一人の捉え方の違いやその理由などについて考えることを通して自他の考えのよさを認識したうえで、自分の考えを広げたり深めたりする生徒を育成していきたいと考える。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・場面の状況や武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・作品を読んで考えたことを、他者との交流を通して、さらに広げたり深めたりすることができる。(思考・判断・表現)

(2) 展開の構想

本時では、他者との交流を通して自分の考えを再構築させる。その活動により、生徒にとって考えが広がったり深まったりしたことが実感できる授業を展開したい。まずは自分の考えを整理したりまとめたりしやすくなるように思考ツールを活用し、書くことが苦手な生徒でも取り組みやすいようにする。次に、他者との交流を、考えの再構築の場で活かせるようにする必要がある。そのため、グループ編成は4人程度の小グループで、尚且つ自分とは違う考えを選んだ人の話が聞けるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5	・前時の復習。	○与一が扇を射た条件、平家と源氏の反応を答えさせる。 ●午後6時頃。北風が激しく吹いている。波は高い。	○源氏と平氏の位置関係が分かる図を用意しておく。 ◇現代語で答えさせる。
10	「弓流し」を読み、武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめよう。		
	・古文、現代語訳を読む。 ・男が舞った理由をおさえる。 ・与一の行動を確認する。	○全員で音読させる。 ○なぜ、男は舞ったのか。 ●与一の腕前が見事だったから。 ○男が舞った後、与一はどんな行動をとったか。 ●命令され、男を射倒した。	◇男は与一にとって敵であることをおさえる。 ◇行動を起こすきっかけは義経からの命令であり、逆らえないものである。
30	・男が射倒された時の両軍の反応を確認する。 ・自分が源氏の一員だったら「あ、射たり」と「情けなし」のどちらの反応をするかを考える。 ・考えを交流する。 ・考えを再構築する。	○平家はどんな反応だったか。 ●音もせず→しんとしていた ○源氏はどんな反応だったか。 ●箆をたたいてどよめきけり。 ●「あ、射たり」 ●「情けなし」 ●「あ、射たり」いくら与一の腕前を褒めたとしても、戦場に情けや容赦は無用だと思うから。 ●「情けなし」いくら敵でも、自分の腕前を褒めてくれた人を殺すのはひどいと思うから。 ○交流は小グループで行わせる。 ●参考になった考えや、自分では思いつかなかった考えなどをメモしながら聞く。 ○交流をうけて、考えを再構築させる。	◇平家にとっては予想外の出来事。 ◇源氏方の中でも価値観が違っていたことをおさえる。武士の世界の非情さを憂いている人もいる。 態 場面の状況や武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめているか。 ◇考えが広がるように、なるべく違う考えで組み合わせる。 思・判・表 他者との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができているか。 (ワークシート)
5	・振り返りを行う。	○iPadを使用させる。	○Googleフォームのアンケート機能を利用する。 操作に戸惑っている生徒に声がけをする。

(4) 評価

- ・場面の状況や武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめようとしていたか。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・作品を読んで考えたことを、他者との関わり合いを通して、さらに広げたり深めたりすることができたか。(思考・判断・表現)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際(指導の実際)

- ① 源平合戦や平家物語について知り、「祇園精舎」の内容をとらえる(第1次)。

教科書やワークの資料などが充実していたため、興味をもって読む姿が見られた。その後、初めて知ったことなどを書く活動では、「源平合戦について、社会の授業ではあまり詳しく習わなかったから、今日初めて知ったことがたくさんあった。7回も戦っていたなんて知らなかった」「歴史は苦手だけど、資料を読んでみてこれから平家物語を勉強するのが少し楽しみになった」などの感想が見られた。

冒頭の「祇園精舎」の授業では、平家物語全体を貫く「無常観」についておさえた。また、冒頭部分を聞いたことがある、または小学校時代に読んだことがあると答えた生徒が3分の1程度いた。七五調でリズムよく読めるため、楽しみながら音読を行った。

- ② 「那須与一」「弓流し」の内容をとらえ、自分の考えをもつ(第2次)。

「那須与一」の場面では、波の高さや風の強さ、時間帯から分かる薄暗さや暗さまでの距離などから、与一にとって矢を射ることがとても困難な状況であったこととおさえた。また、心の中で祈念した言葉から与一の覚悟の強さや、背くことのできない絶対的な主従関係、戦の非情さについておさえた。

本時である「弓流し」の場面では、「武士の価値観についてとらえ、自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定した。舞を舞った五十歳ほどの男は、与一にとって敵であったこと、義経の命令であったこととおさえた上で、自分が源氏の一員だったら「あ、射たり」「情けなし」どちらの反応をするかを考えさせた。次に小グループで考えを交流させ、最後に他者の考えを聞いた上で自分の考えを再構築させた。(図1、2)

【成果】

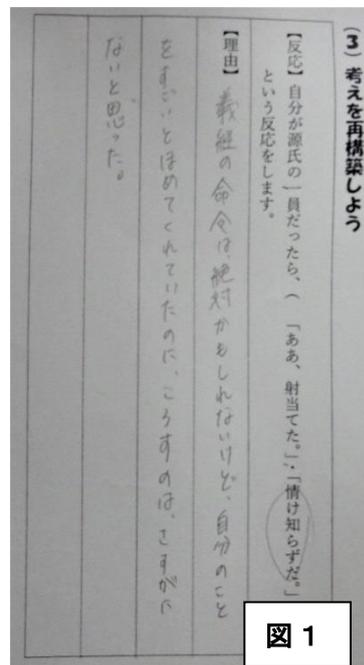
- 自分の考えをまとめることができた生徒が多かった。

【課題】

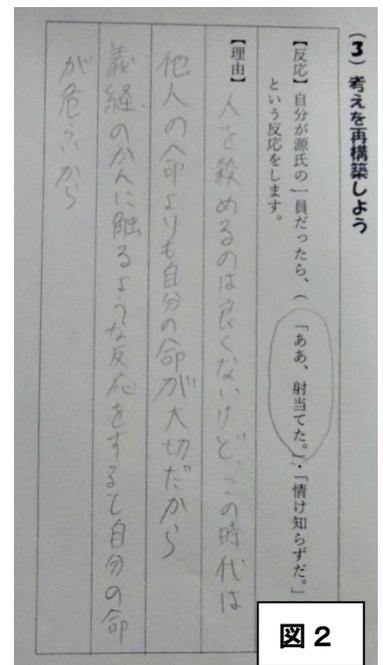
- 時代背景や武士の価値観(武士の誇り、命がけの姿勢)についての言及が少なかった。改善策として、ロイロノートで事前に武士としての価値観を箇条書きでまとめておく。

- ③ 学習を通して、武士の生き方や心情について考えたことをまとめる。主な表現技法を押しさえる(第3次)。

前時の「武士の価値観についての言及が少なかった」という課題から、武士の価値観に



【「情けなし」を選択した生徒の記述】

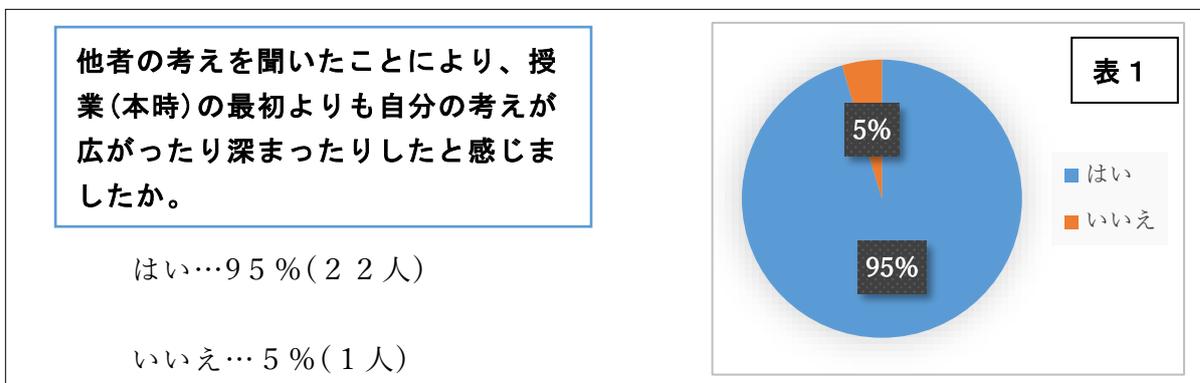


【「ああ、射たり」を選択した生徒の記述】

ついて再確認をした。次に、武士の生き方や心情について、学習全体を通して考えたことを書く活動を行った。伝統的な言語の表現技法に関しては第3次の2時間目に行った。

(2) 研究テーマに関わる考察

研究テーマに関する生徒の自己評価結果は表1のとおりである。(表1)



研究テーマに迫るために、今回は2つの手立てを設けた。

① 思考ツールの活用による考えの可視化

自分の考えを整理してまとめやすくするために、今回はステップチャートを用いた。初めに自分が「ああ、よく射た」と「情け知らずだ」のどちらの立場かを選ばせた。次に自分の考えを書かせた。スモールステップで記述させることにより、ほとんどの生徒が自分の考えをまとめることができた。このことから、思考ツールの活用は書くことへの苦手意識の軽減を図るのに有効であったと考える。

② 他者との交流の場の設定

今回は考えが2つに分かれる働きかけをして、ネームプレートを用いてそれぞれの立場を選んだ人数や人が明らかになるようにした。自分と同じ立場を選んだ人と違う立場を選んだ人の考えが聞けるように、その場でグループを編成した。小グループでの交流の場を設定したことで、最初よりも自分の考えがより広がったり深まったりしたと感じた生徒は95%と肯定的な自己評価が多かった。しかし授業者として振り返ると、二項対立による課題はとりかかり易いというメリットの一方で、考えの引き出しの数が限られるため、考えの広がり方が狭まってしまうということに気づいた。また今回の交流では、自分の考えの発表と他者の考えを聞くことはできていたが、他者の考えによって自分の考えを再構築するためには、さらなる働きかけが必要である。

(3) 今後の改善の方法

① 考えに広がりや深まりが生まれる学習課題の設定

今回の実践を通して、設定する課題により考えが狭まってしまいうことに改めて気づかされた。あらかじめ予想される生徒の反応やその課題で考えに広がりや深まりが生まれるかを吟味する必要がある。

② 自分の考えをもたせるための工夫

書く活動が苦手な生徒や、学力が低位の生徒が少しでも自分の考えをもち、そしてそれを表現できるように、考えを整理したり可視化したりできる思考ツールの活用やワークシートの工夫は欠かせないと感じた。まずは授業者として積極的に思考ツールを活用していきたい。